

第4回香川県脱炭素・地球温暖化対策本部会議資料

令和6年2月13日（火）

議題

- 1 地球温暖化の現状等について
- 2 香川県地域脱炭素ロードマップの評価・検証等について

議題

1 地球温暖化の現状等について

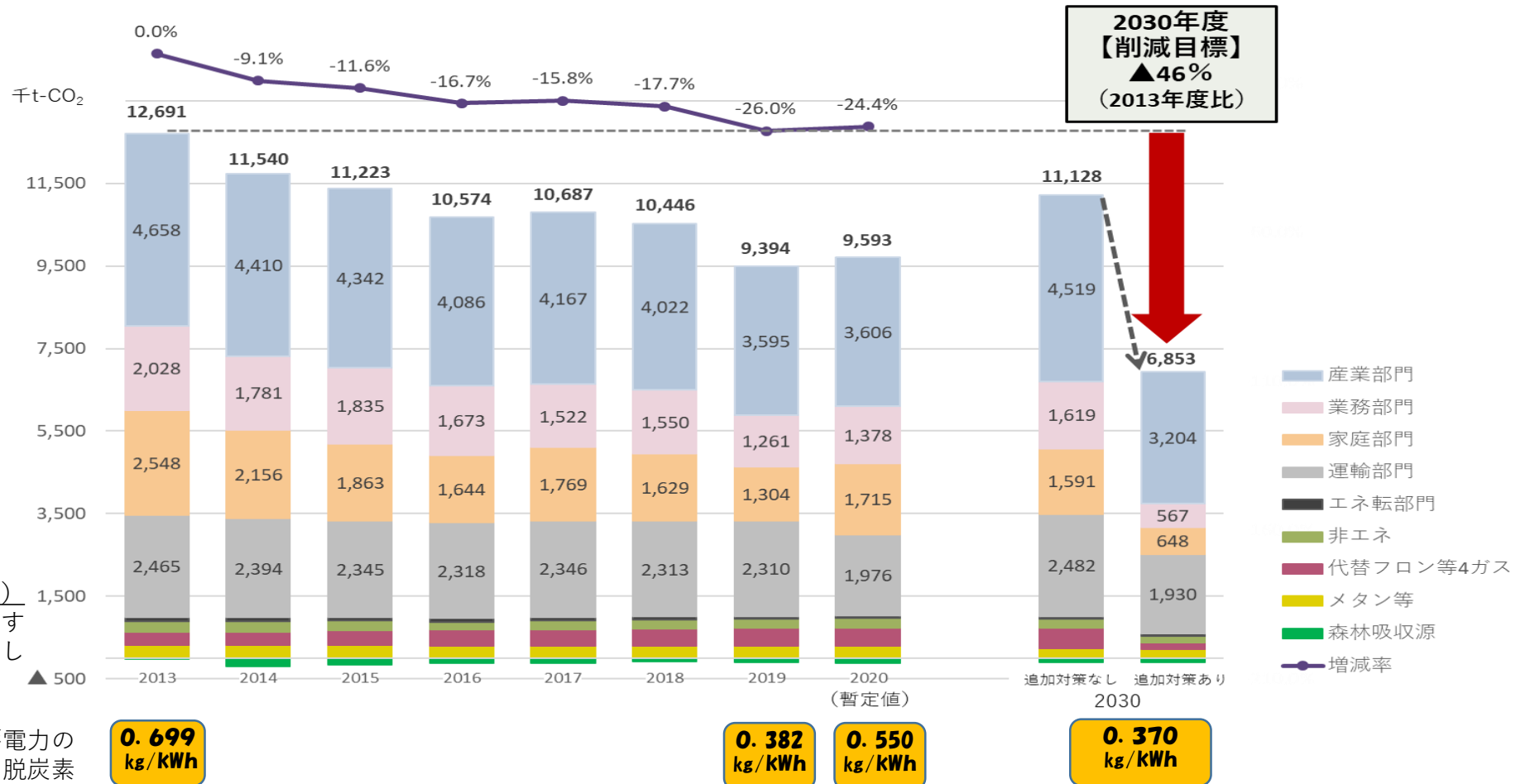
これまでの県内の主な取組み

- 2021年2月 「2050年カーボンニュートラル」を表明
- 2021年10月 「第4次香川県地球温暖化対策推進計画」を策定
【目標】温室効果ガス2025年度に2013年度比で33%削減
- 2022年4月 香川県地域脱炭素推進協議会を設置
- 2022年9月 坂出港カーボンニュートラルポート形成協議会（現在の坂出港
港湾脱炭素化推進協議会）を設置
- 2023年2月 「香川県地域脱炭素ロードマップ」を策定
- 2023年8月 高松港港湾脱炭素化推進協議会を設置

本県の現状について

●本県の温室効果ガス排出量の推移

- ✓ 2013年以降、産業部門、業務部門、家庭部門において着実に排出量を減らしてきているが、今後の経済成長率等を前提とした推計では温室効果ガス排出量は増加すると見込まれている。
- ✓ 2030年に2013年度比▲46%を達成するためには、各分野においてより一層の削減努力が必要。



本県の現状について

2030年度に46%削減目標の達成に向けた温室効果ガス削減量の目安

～国の「地球温暖化対策計画」における目標達成のための削減量根拠をもとに、人口等本県の規模を踏まえ削減量の目安を算出。(千t-CO2)

	2013	2019	2020 (暫定値)		2030		2030							
	基準年度		現況		追加対策なし		追加対策あり							
				基準年度比	(現状すう勢)	基準年度比	基準年度比	削減見込量目安						
									省エネ等による削減目安	排出係数影響見込	うち太陽光発電導入効果見込			
二酸化炭素	12,066	8,754	8,959	-26%	10,476	-13%	6,567	-46%	▲3,909	-	-	-		
エネルギー起源	11,801	8,523	8,731	-26%	10,264	-13%	6,402	-46%	▲3,862	(▲1,645)	(▲2,217)	(▲134)		
産業部門	4,658	3,595	3,606	-23%	4,519	-3%	3,204	-31%	▲1,315	(▲471)	(▲844)	(▲107)		
業務部門	2,028	1,261	1,378	-32%	1,619	-20%	567	-72%	▲1,052	(▲360)	(▲692)	-		
家庭部門	2,548	1,304	1,715	-33%	1,591	-38%	648	-75%	▲943	(▲270)	(▲673)	(▲27)		
運輸部門	2,465	2,310	1,976	-20%	2,482	1%	1,930	-22%	▲552	(▲544)	(▲8)	-		
工ネ転部門	102	53	57	-44%	53	-48%	53	-48%	-	-	-	-		
非エネルギー起源	265	231	228	-14%	212	-20%	165	-38%	▲47	(▲47)	-	-		
工業プロセス	2	2	1	-18%	1	-50%	-	-100%	▲1	(▲1)	-	-		
廃棄物分野	263	229	226	-14%	211	-20%	165	-37%	▲46	(▲46)	-	-		
メタン等	317	299	300	-5%	246	-22%	228	-28%	▲18	(▲18)	-	-		
代替フロン等4ガス	317	432	442	40%	497	57%	149	-53%	▲348	(▲348)	-	-		
合計	12,700	9,485	9,701	-24%	11,219	-12%	6,944	-45%	▲4,275	(▲2,059)	(▲2,217)	(▲134)		
森林等吸収源対策	▲10	▲91	▲109	1041%	▲91	810%	▲91	810%	-	-	-	-		
合計(差引後)	12,691	9,394	9,593	-24%	11,128	-12%	6,853	-46%	▲4,275	(▲2,059)	(▲2,217)	(▲134)		

※現状すう勢とは、今後追加的な対策（既存の取組みに加えて、県民、事業者の省エネ・再エネ導入のさらなる取組みを行うこと）を見込まないまま推移した場合の将来の温室効果ガス排出量を指します。区域の将来推計人口や経済成長率等の活動量の見通しを踏まえたものとなっています。

※桁数処理の関係で、合計・比率が一致しない場合があります。

※2020年度（暫定値）の算定に用いた各種統計等の年報について、暫定値の算定時点で当該年度の値が未公表のものは、2019年度の値を代用しています。そのため、2020年度確報値との間で差異が生じる可能性があります。

本県の現状について

●エネルギー消費量の推移

- ✓ 2020年度のエネルギー消費量は、前年度比で9,892TJの減少となっている。
- ✓ 新型コロナウイルス感染症の流行に伴って経済活動が制限され、需要面での落ち込みが影響したと考えられる。

